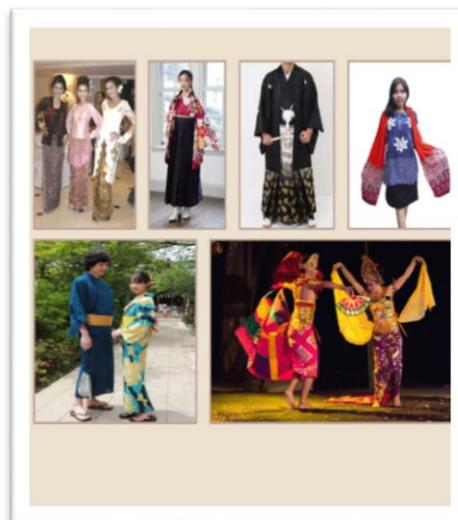


学校名	広島県立五日市高等学校
所在地	広島市佐伯区観音台三丁目 15 - 1
HP	<a href="http://www.itsukaichi-h.hiroshima.c.ed.jp/">http://www.itsukaichi-h.hiroshima.c.ed.jp/</a>
令和4年度 交流内容	<p>【インドネシア姉妹校チカル校、マレーシア姉妹校ゴンバック校との3校合同オンライン探究プロジェクト(CEP2022 コミュニティ・プロジェクト)】</p> <p>実施期間：令和4年8月5日（金）～9月24日（金）  第1回 Zoom 会議 8月5日（金）（放課後） 17:30～18:30  第2回 Zoom 会議 8月19日（金）（放課後） 17:30～18:30  第3回 Zoom 会議 9月2日（金）（放課後） 17:30～18:30  第4回 Zoom 会議 9月16日（金）（放課後） 17:30～18:30  第5回 Zoom 会議 9月30日（金）（放課後） 17:30～18:30（成果発表会）</p> <p>実施方法：オンライン会議（Zoom、LINE、G Suite）  参加人数：本校生徒 22 名、チカル校生徒 25 名</p> <p>交流内容：新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で、従来の相互訪問型の国際交流の実施が困難となっている。令和2年度に広島県教育委員会による G-suite を活用したオンライン学習形態からヒントを得て、チカル校と「オンライン国際交流（CEP）」をスタートさせた。令和4年度第1期はマレーシア姉妹校との合同探究型のオンライン交流「CEP 2022 コミュニティ・プロジェクト」を実施した。</p> <p>プロジェクトでは、生徒たちは6つの合同班に分かれ、各班に両校の担当教員がそれぞれメンター役として配置された。参加生徒のコミュニケーションツールとして、アイデアの交換にグループ LINE が大きな役割を果たしている。さらに、オンライン会議には Zoom を、グループのデジタルファイル共有の場として Google Drive が用いられ、それぞれのデジタルツールの特性をうまく生かしながら、コミュニケーションを活性化させ、効率的に活動に取り組んだ。</p> <p>各グループの発表タイトルは以下の通り。  1班「CO2削減！～リメイクアイデア～」  2班「2か国フードロス伝統レシピ」  3班「ジェンダーレスファッションのデザイン」  4班「英語コミュニケーション学習の提案」  5班「ジェンダー問題と環境問題のつながり」  6班「2カ国で考察ジェンダーギャップ」</p> <p>前年度とのプログラムの違いは、各班の探究テーマのレベルアップである。第1期では参加校が3校から2校に縮小したが、一方で互いの文化や習慣について常に討論しやすい環境が得られたことと、校内のグループ構成を同学年にさせたことで、コミュニケーションがとりやすくなり、短期間で問いを立てられるように工夫した。</p>



生徒考案の交流イベントのチラシ



ジェンダーレスファッションの提案

6グループにおいて特に印象的な探究をしていた班として3班の「ジェンダーレスファッションのデザイン」を紹介する。本校の生徒たちにとってジェンダーレスという言葉は近年に身近に感じられるようだ。姉妹校の生徒にもそのテーマを共有しようとしていたが、「好きな服は性別問わず着るべきだ」という意見や、「ジェンダーレス」という概念があまり若者の間で普及していない印象を受けたそうだ。しかし、互いの伝統衣装の歴史を探ると、日本の着物やインドネシアのバティックやサロン(巻きスカートのような衣類)に見られるように、ジェンダーを問わず身に付けられている衣服の文化があることが分かった。それをヒントに、日本とインドネシアの伝統柄や素材を織り交ぜたオリジナルのジェンダーレスファッションをチームで考案していた点は興味深かった。また、日本とインドネシアでの「ジェンダー問題」の捉え方の違いにカルチャーショックを受けた生徒たちもいた。イスラム社会において「ジェンダー問題」を探究テーマに設定することは容易いことではなく、デリケートな問題として扱われなければならない。それは、将来生徒たちが日本にいながら多様なルーツを持つ外国人と接するときに配慮すべき感覚だろう。

【インドネシア姉妹校チカル校、マレーシア姉妹校ゴンバック校との3校合同オンライン文化祭】

実施期間：令和5年2月3日（金）～令和5年3月10日（金）

第1回 Zoom 会議 2月3日（金）（放課後） 17:00～18:30

第2回 Zoom 会議 2月10日（金）（放課後） 17:00～18:30

第3回 Zoom 会議 2月24日（金）（放課後） 17:00～18:30

第4回 Zoom 会議 3月3日（金）（放課後） 17:00～18:30

第5回 Zoom 会議 3月10日（金）（放課後） 17:00～18:30（文化祭当日）

実施方法：オンライン会議（Zoom、LINE、G Suite）

参加人数：本校生徒 37 名、チカル校生徒 15 名、ゴンバック校生徒 12 名

交流内容：令和 5 年 2 月、交流の主体を 1 年生・2 年生に移し、今年度第 2 期オンライン交流を実施。この第 2 期交流プログラムを「オンライン文化祭」とし、マレーシアのゴンバック校を迎えた 3 校合同でのコラボレーションプログラムとなった。このプロジェクトでは総勢 64 名の参加生徒が 10 グループに分かれ、「文化」をテーマにした 5 分間の交流動画を協働制作した。3 か月の取り組み期間を通じて、生徒たちは LINE や Telegram 等を活用して姉妹校の生徒たちとアイデアの交換を行い、動画撮影や編集計画を各自で立て、実行した。コロナ禍とはいえ、3 校の行事予定がコロナ前の内容へ戻りつつあったため、多忙なスケジュールの中タイミングが合わず開始が遅れたが、その分毎週 1 回のペースで Zoom 会議を実施することができ、参加者にとっては密度の濃い取り組みができたのではないだろうか。

各グループの作品タイトルは以下の通り。

- 1 班「A Day in the Life of JK」
- 2 班「くっくるんのお料理教室」
- 3 班「A long time ago、 there was a place...?」
- 4 班「Let's enjoy fantastic events」
- 5 班「Magical Visit」
- 6 班「お互いの国の結婚式クイズ」
- 7 班「Saba dance ソーラン節 = Saba 節」
- 8 班「DORAM BALIK ドラバリック～奇跡のコンビネーション～」
- 9 班「Don't you want to know our favorite place?」
- 10 班「If you know this、 you are a genius. これが分かればあなたは天才」

第 2 期の主な特徴として、進路が決まった 3 年生たちがチューターとして参加者たちをサポートする役割を担った。また、事前研修で姉妹校の国の文化等を先にリサーチし、全体でその情報をシェアしたことによって、その後の Zoom 会議でのテーマ設定が効率よく進められていた。

今回、多くの班で使われていたのが互いの文化を地元で再現してみるという内容の企画だった。地元で手に入る食材を使って相手の国の料理をする班や伝統的なダンス、遊びを実践してみるといった内容だ。普段、生徒たちはインドネシアやマレーシアの文化と接する機会がなかったため、その体験が新鮮に映り、その文化を通して宗教や歴史観に触れられたことが異文化を知る大きなきっかけとなった。また、作品づくりにおけるやりとりにおいても、参加者たちから多くの気づきが寄せられた。翻訳アプリに頼らず自分の英語で勝負するために殻を破った生徒や、きちんと思いを伝えつつもりが相手に誤って伝わり解釈の違いを生んでしまった生徒、相手の要望を取り入れながらも時には自身の意見も理解してもらえようコミュニケーションを工夫した生徒など、良い作品を作り上げる上で苦労したことやハプニングこそが印象的だと捉える生徒が多かった。自分自身の課題やトラブルを把握し、きちんと向き合える生徒が増えてきたのも今回の取り組みの成果だった。



2カ国のスイーツコラボレシピの考案



インドネシアの生徒が日本のお団子を再現



意見を正しく伝えることの難しさ



テレグラムアプリを使ったやりとり

なお「オンライン文化祭」の紹介動画はチカル校の運営する Instagram「CEP 3校合同アカウント」で随時発信されており、下記の QR コードからアクセスし視聴できる。生徒たちの成果物をぜひこちらでご覧いただきたい。



Instagram の QR コードはこちら



CEP 3校合同アカウントが継続活用されている

【インドネシア・チカル校受け入れ】

令和5年9月1日（金）～9月4日（月）

9月1日（金） 歓迎式、学校生活・授業体験 （セミナーハウス宿泊）

9月2日（土） 公民館での夏祭り体験、地球市民講座 （セミナーハウス宿泊）

9月3日（日） 宮島・平和公園フィールドワーク

9月4日（月） 地球市民講座ふりかえり、閉会式

チカル校と本校の生徒たち（各30名程度）がバディを組み、4日間の受け入れ交流を実施する。校内の授業体験のみならず、地域の公民館での夏祭りの体験や、地球市民講座として平和学習の機会を設けている。プログラムを通じて自国の文化や姉妹校の文化を学び、幅広いコミュニケーションを身に付け、グローバル社会で求められる力を見出し引き伸ばすことを目的とする。事前研修としてオンライン会議も予定している。

【インドネシア・チカル校訪問】

令和6年1月28日（日）～2月2日（金）

1月28日（日） 出国

1月29日（月） 歓迎式、交流プログラム1日目（ホームステイ）

1月30日（火） 交流プログラム2日目（ホームステイ）

1月31日（水） 交流プログラム3日目（ホームステイ）

2月1日（木） 閉会式

2月2日（金） 帰国

チカル校を本校の生徒たち（各10名程度）が訪問し、授業体験やホームステイを体験しながら異文化理解を深める。現在はチカル校と企画について連携中である。

今後の  
交流予定